



# 円環

現代美術と漆の饗宴

2012年10月13日(土)－12月24日(月・祝)

主催／豊田市美術館、(公財)高橋記念美術文化振興財団

休館日／月曜日(12月24日は開館) 開館時間／午前10時－午後5時30分(入場は午後5時まで)

観覧料／一般300円(250円) 高校・大学生200円(150円) 中学生以下無料

( )内は20名以上の団体料金／市内高校生、障がい者および市内75歳以上は無料(要証明)

\*「青木野枝」ふりそぐぐものたち」展もしくは常設展観覧券でご覧いただけます。

豊田市美術館 高橋節郎館

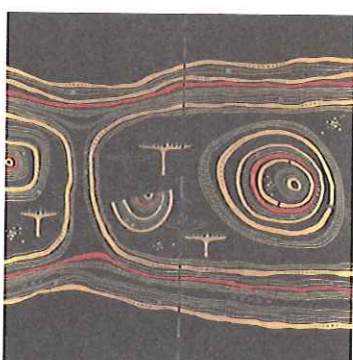
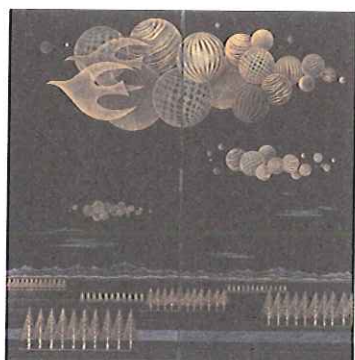
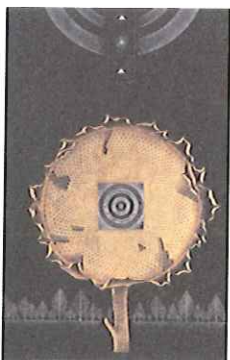


Toyota  
Municipal  
Museum  
of Art

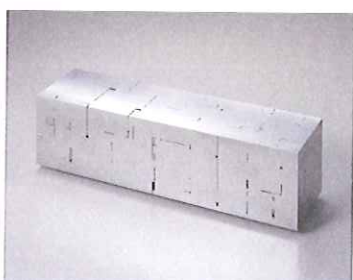
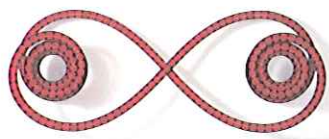
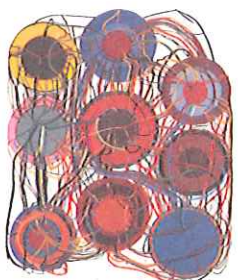
豊田市美術館

私たちにとって円はもっとも親しまれてきた形のひとつであり、ある1点から等距離の点が連続して集合する現実には存在し得ない存在です。また円が回転してできるドーナツ状の閉じられた曲面を円環と呼びます。始まりも終わりも存在しない2つの形の間で生じる、2次元から3次元への変容。視点を変え思考をめぐらせば、私たちは形から形へとゆるやかに連続する、深遠な変化を認識できるといえるでしょう。

高橋節郎の作品には大小の円を用いた表現がしばしば見られます。高橋は周囲に満ちる様々な移ろいを、円弧を用いて捉えようとしたのかもしれませんが。本展では高橋作品に併せて、豊田市美術館所蔵の国内外作家による円や弧、もしくは反復や変容をイメージさせる作品約40点を展示します。円環的時間観のもとに存在する連続や集合、表層と境界、死と再生など、作品に内在する連綿と繰り返される相互作用を見出していただければ幸いです。



Toyota  
Municipal  
Museum of Art  
豊田市美術館



上段左から：高橋節郎《標》1977年、高橋節郎《星座回帰》1986年、高橋節郎《化石の年輪》1965年  
下段左から：田中敦子《Work 1963 B》1963年、野村仁《赤道上の太陽》1989年、毛利武太郎《Mr.阿からのメッセージ 第3巻》1996年

# 円環

現代美術と漆の饗宴 2012年10月13日(土)－12月24日(月・祝)

関連事業：学芸員によるギャラリートーク 午後3時から  
10月20日(土)、11月10日(土)、12月8日(土)  
※高橋節郎館カウンター前にお集まりください。※当日の観覧券が必要です。  
同時開催：「青木野枝 | ふりそそぐものたち」「Organic Form」

問合せ先：豊田市美術館  
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1  
Tel.0565-34-6610 <http://cul-takahashi-memorial.or.jp>

- 名古屋駅より名鉄豊田市駅まで：地下鉄東山線伏見駅乗り換え、地下鉄錦線豊田行き終点下車
- 名鉄豊田市駅または愛知環状鉄道新豊田駅より：徒歩12分
- お車ご利用の場合：東名高速道路豊田ICより約15分
- 東海環状自動車道松平ICより約15分

